



公益財団法人SAJ

SAJ Farm 通信

vol.74 2016年 9月号

公益財団法人
School Aid Japan
〒144-0043
東京都大田区羽田 1-1-3
TEL: 03-5737-2773
FAX: 03-5737-2793
<http://www.schoolaidjapan.or.jp>
sajinfo@schoolaidjapan.or.jp

今年も孤児院の子どもの農業実習を開催!!

皆さんこんにちは。日本では台風と豪雨で大変なことになっていると聞きました。SAJ Farmでも9月にまとまった雨が降り、一夜にして水田が湖に変わったり、道路が冠水して車が通れなくなることもありました。カンボジアは1年間で9、10月が最も雨が降りやすいため、今後の降雨量について畑への影響が出ないか心配しています。今月の報告をいたします。



子供たちとの集合写真



田植える子供たち

◇孤児院農業実習

8月29日から、SAJ Farm では、夏休みを利用して孤児院の中学生から高校生までの子ども達を受け入れ、農業実習を行いました。男女別に4つのグループをつくり、1グループが5日間農場で寝泊りし、農場の仕事を手伝ってもらいました。農場に来た子達はみな元気がよく、特に女の子たちは男の子に負けないぐらい元気に声を掛け合いながら作業していました。農場の現地スタッフにも仲良く話しかけて、去年よりもお互いに協力して作業する姿がたくさん見られました。子どもたちには農場で、草むしりや、田植え、レモングラスの収穫、調整作業などを手伝ってもらいました。みな明るく仕事も真面目に取り組んでいました。しかし一部の子どもたち、特に今回初参加の子どもは、仕事に飽きてしまったのか途中で上の空になったり、自分の仕事が終わってしまうと注意するまで何もせずボーとしている子もいました。中にはグループリーダーがしっかり注意して下の子どもを指導しているグループもあり、去年よりも成長した子供達の姿を見ることができました。今回の農場実習で子供達には仕事の大切さ大変さを感じてもらい、周りの人と協力して作業すること、そして水や道具などの物を大切にすることをいつまでも忘れないで欲しいと思います。



田植えの様子



田植え後の水田



水没した水田の様子

◇田植え

9月6日、水田6枚、約1haに田植えを行いました。日本はほぼ機械で植えますが、カンボジアでは手植えです。人数が必要なため近所でお互いに助け合って田植えをします。孤児院の農場実習をこの時期に開催したのは田植えをしてもらうためです。しかし、今年の9月初旬はまだ水田に水が少なく、2日前からポンプで池から水を汲み上げて準備を始めました。水がたまると、トラクターで代掻きを行います。代掻きをするのは土と水を混ぜて泥を作り、苗を植えやすくすることと、水田を平らにするためです。その間に、農場のスタッフと孤児院の子供たちには苗を苗床から引き抜き、紐で縛って用意してもらいました。水田と苗の準備が終わるといよいよ田植えです。印のある定植用の紐を30cm間隔をあけて水田に張り、紐に沿って苗を植えていきます。すべての印の場所に苗を植え終わると、また紐を横へずらして張り、植えることを繰り返します。苗束づくりから水田1枚田植えが終わるまで午前中一杯かかります。午後は天候が崩れやすいので室内作業をしたため、すべての水田の田植えが終わるまで、約2週間かかりました。できたお米は来年の作付け分の粳を残して精米し、孤児院で食べてもらう予定です。

◇豪雨到来

9月中頃、ちょうど田植えが終わった時期に農場に豪雨が到来しました。農場から国道へ出る道は一部が冠水し、孤児院の子どもたちを迎えに来た車が入れないほどでした。農場の周りの水田はみな水没してしまい、一面が湖のようになっていました。高台にあるSAJFarmの水田は水没を免れましたが、川沿いの裏の水田は川の水が流入し水没してしまいました。田植えをした稲も雨水で水没してしまいましたが、稲は数日なら水没しても生きることができますが、雨が降り続くかもしれなかったため、今回は水田からポンプで水を汲み出しました。幸い雨も落ち着き、水没後2日目には水が引いていたため稲は助かりました。今後最も降雨量が増える10月を前にして、油断できない日々が続きます。